

葬式やお見舞いに関する比較

今回1グループでは葬儀でのマナーやお見舞いに行く時に持っていくものやそのお返しに何を
持っていくのか話し合いました。

葬儀での服装

日本：通夜は、元々はきちんとした喪服を着用する必要はありませんでした。逆に喪服では、亡くなるのを待って喪服を準備していたようだとされ、喪服以外の地味な服装であれば通夜に出席しても構わないと考えられていました。しかし最近では通夜だけで弔問を済ませ、葬儀には出席しない人も増えたため、喪服で通夜も多くなっています。

韓国：日本と同じ黒の喪服でアクセサリは身につけてはいけません。もしアクセサリを身につけていたら、外してバックなどに保管します。

中国：日本や韓国と違い服装に決まりはありません。赤以外は大丈夫のようです。

葬儀の場所

日本：葬儀場で行う家庭が一般的ですが、家で行う家庭もあります。

韓国：日本と同じく葬儀場で行うのが一般的なのですが、家で行う場合もあります。葬儀場で行う場合、病院に葬儀場があり病院内で行うこともあります。

中国：日本と同じで葬儀場や家で行います。地域によっては火葬しないでそのまま土に埋葬するそうです。

お見舞いに持っていくもの

日本：花や果物、お菓子、飲み物（ジュース、栄養ドリンク）などを持って行きます。花は鉢植えのものや匂いの強いもの縁起の悪いものは持って行ってはいけません（ゆり、バラ、椿、シクラメン、菊など）。

韓国：飲み物や果物を持って行き、花は持っていきません。これは病室を一人で使うことがほとんどないので、同じ病室のアレルギーを持った人がいるかもしれないので、持って行かないとされています。

中国：主に果物を持って行き、花は持って行かないそうです。

退院後のお返し

日本：ギフト品を買ってお礼に行きます。

韓国・中国：わざわざ品物を買ってお礼には行かないですが、お礼の電話をします。

今回の話し合いもお見舞いに行くことがなく、どんなことを話したらいいのかわかりませんでした。お葬式は滅多にあることではないので、特にわかりませんでした。授業中ビデオを見たりインターネットを使って、一般的にはこうしているというのを見て、自分たちならこうするというように考えて話し合いました。こうした話し合いで母国の知らなかった文化も学べて良かったです。

梅津春菜 加藤凧沙 金井茂樹 笹森美玖 夏双双 金股美 姜順好 李臣鎬